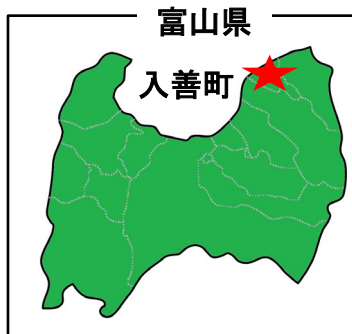


こども食堂の開催

○ 新型コロナウイルス感染症の影響や社会情勢の変化により、家庭でのこどもの食事について変化が生じており、さらに、こども食堂などの共食の場を提供しても、提供期間や継続性などの課題から町民や子供たちから十分に認知されていないという課題がある。

○ このため、地域のコミュニケーションの活性化、孤独孤立対策に資するため、こども食堂など共食の場の提供及び食育の機会の提供を継続的に開催した。食事に使用する食材は、使用する食材のうち、半分以上を地場産食材とすることを目標として実施した。



【取組の内容】

○ こども食堂の開催

年間81回こども食堂を開催した。子どもから高齢者までを対象としており、延べ1,459名が参加した。地域の生産者や地元企業の食材の提供により、使用する食材のうち、半分以上を地場産食材を使用することを目標に掲げ、食事を提供した。



（みんなで食事をする様子）

○ 食育イベントの実施

入善町働く婦人の家での出張地域食堂として、子どもボランティアによる運営により、地域の人たちに野菜の産地や栄養価などを説明する食育イベントを実施した。



（盛り付けの様子）



（食事をする様子）



（片付けの様子）

【取組の成果】

○ 参加者から「久しぶりにこどもたちと食事ができて楽しかった。」「お母さん同士で話すことができて良かった。」「みんなで食べるとおいしく感じた。」等の感想があり、こども食堂を通して共食への関心が高まった。

【事業の目標】

○ 産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合

事業実施前 73.5%



事業実施後 80.5%

○ 地域等で共食をしたいと思う者の割合

事業実施前 36.7%



事業実施後 48.0%

